

24 回ふれあいトーク
(高岡流おもてなし PartⅢ～音楽による魅力あるまちづくり～) 会議記録

- 1、日 時 平成 26 年 6 月 6 日（金） 午後 7 時から 8 時 30 分
2、場 所 クルン高岡地下街 B1 マルチルーム
3、出席者 9 名
音楽愛好家 9 名
市長、生涯学習課長、商業雇用課長、広報統計課長

4、会議次第

- (1) 市長挨拶
(2) 市長の出前講座（新幹線開業に向けて）
(3) 参加者の自己紹介及び活動紹介
(4) 意見交換

.....
参加者の自己紹介及び活動紹介

参加者

- ・瑞龍寺口の参道八丁道に一軒家を改装して、色々な人が集まれるコミュニティハウスを開設した。イベントの企画など自分達で楽しいことをやっていこうと、行政に依存しない活動を目指して運営している。音楽としては、高岡駅などで、弾き語りをしている。バンドを組んでおり、子ども達と作曲活動もしており、色々な喫茶店で演奏などしている。

参加者

- ・大学院生で、大学 2 年生頃から活動を始めた。同級生と 2 人でちょっと静かな音楽を奏でるアコースティックユニットとして活動している。土蔵造りの町並みで知られる山町筋の「はんぶんこ」で 1 回演奏をした。そこは、空き店舗を活用しており、土蔵造りの家と蔵を改装した室内にはギャラリーやワークショップなどに利用できる交流スペースがあり、音が反響して非常に良かった。音楽活動はあまり大々的にやっていないが、これから少しずつ活動をしていこうと思っている。

参加者

- ・アコースティックデュオとして活動している。2005 年に埼玉でデビューしたが、今は、富山から全国に音楽を発信している。富山をアピールするために、どこの地へ行っても高岡弁でライブを行っている。自分達が音楽活動を通じて得た経験や人脈を活かして、後進のミュージシャンを支援するなど、音楽で高岡を応援していきたいと思っている。また、これからはストリートライブも行っていきたいと思っている。

参加者

- ・'98 年ごろからアマチュアの音楽活動にこだわってやってきた。「見つける・育てる・楽しむ」というテーマのもと、アマチュア音楽家を高岡で育てようとしてきた。開町 400 年記念の平成 21 年までの 10 年間、重要文化財の武田家でコンサートをしていた。

- ・近年、高岡のライブハウスが減ってきていることに非常に危機感を感じている。このままではアマチュア音楽家が高岡で演奏しなくなると感じ、後継者を育てるためにも音楽活動をする団体を立ち上げた。平成 25 年から活動場所を探していたが、ウイング・ウイング高岡 1 階交流スペース「リトルウイング」にステージが完成したおかげで、活動の拠点ができた。これまでは、町衆サロンや市民会館ホールサポーターの会などがそれぞれの活動拠点でばらばらに活動をしていたが、高岡駅周辺に点在していることから、その活動を線にしてつなげ、駅前から音楽を発信していきたい。
- ・市内外から人が来た際に、駅の近くで色々な音楽を演奏している、魅力のある街にしたいと考えている。

参加者

- ・日本語のオリジナル曲を演奏するバンドのギター兼ボーカルとして活動している。そのほか音楽活動の裏方としても活動している。最初は東京や京都でライブをしていたが、25 歳のときに大阪から高岡へ来た。他所から来た者だからこそわかる高岡の良さを感じ、高岡でライブ活動をしたいと思い、知り合いのいないなか、メンバーを探して活動してきた。
- ・高岡市民は音楽の盛んな高円寺、吉祥寺、下北沢、京都のように文化全般に対する関心が高く、潜在的な力があると感じている。「高岡系」といわれるような高岡ならではの新しい音楽が生まれてほしいという夢を持って、今後も頑張りたいと思う。

参加者

- ・夫婦で津軽三味線芸人として活動している。もともとは二人とも高岡駅の地下街で活動をしていたので、地下街のリニューアルオープン時に B1 ステージで演奏する機会があり嬉しかった。自作の「暴れ獅子」という曲がヒットしたことにより、最近では獅子舞に関する活動も多くなり、高岡ケーブルテレビの「おしえて！獅子舞テレビ」にも出演している。

参加者

- ・今まで地域の祭りではしかなかった獅子舞を結婚式やイベント等に観光の資源として活用していきたい。そのためには、一年を通して獅子舞の活動をする団体を発足させる必要があると考え、現在団体の参加者を募集中である。高岡の芸術・文化の中で獅子舞も取り入れ、全国に発信していきたい。

参加者

- ・18 人程度のジャズのビッグバンドをしており、そのうち 6 人程度が高岡の人間である。活動場所は高岡のほか富山や金沢でも活動している。磯はなびや砺波のダンスホール銀の花で生演奏するバンドを作ってほしいと依頼されたことがきっかけでバンドをつくった。高岡の七夕まつりにほぼ毎年参加しており、去年からは福岡町土屋のリバーサイドフェスタでも演奏している。

参加者

- ・もともとはジャズバンドで活動していた。それと並行して、シンセサイザー奏者である滝沢卓氏とオカリナの演奏等の活動もしてきた。今年 1 月に、山町筋の土蔵造りの

まち資料館でボサノヴァコンサート〜高岡を感じて〜に参加し、歌手の北山氏とギター奏者の室谷氏と中学の同級生3人で演奏をした。最近では音楽活動をする団体の裏方としても活動している。ウイング・ウイング高岡1階の交流スペース「リトルウイング」やクルン高岡地下街のB1ステージ等ができ、高岡の音楽シーンは盛り上がっていると思う。本業は楽器店でピアノとフルートとオカリナの講師をしているが、高岡のためにはと思って、様々な活動をしている。

- ・高岡市には富山県高岡文化ホール、ウイング・ウイング高岡、高岡市民会館、高岡市ふくおか総合文化センター（Uホール）等の会場があるが、ピアノ講師の先生等は射水市大島絵本館やアイザック小杉文化ホール ラポールなど、射水市の施設をよく利用している。高岡にもっと手ごろなホールがあればいいと思う。

市長

- ・高岡の会場が大きすぎたり小さすぎたりして使いにくいということか。

参加者

- ・市民会館は個人の演奏で使うには大きすぎる。富山県高岡文化ホールは使いやすいため、演奏したい人が多く、利用できないことがある。また、駐車料金がかかる会場には、高岡市民は集まりにくいようだ。

生涯学習課長

- ・音楽によって高岡を盛り上げるため、皆さんにご協力いただきたいと考えている。現在、高岡駅前を音楽を使って元気にしていこうと試みているが、皆さんが日頃の音楽活動を通して感じている事や、改善点等について自由にご意見をいただきたい。

参加者

- ・高岡では、規模の小さいコンサートが多く開催されているが、富山市ではビートラム・ミュージック・フェスティバル、金沢市の金沢ジャズストリート等、ほかの地域から音楽でお客さんを呼べる大きなフェスティバルがある。まちの人が楽しむということも良いが、市外から人が来てもらえるような音楽フェスタを高岡で開催できればいいと思う。

参加者

- ・高山の陣屋前で行われている、飛騨高山ストリートジャズフェスティバルに毎年参加している。岐阜、名古屋や富山からも人が集まっており、出演者の応援に来る人も多い。

市長

- ・演奏者を呼ぶのか、お客さんを呼ぶのか、どういう形のフェスティバルの開催を志向したらいいのか。アマチュアの人が市民を誘い込んで盛り上がっていくものもいいし、継続的に持続的に開催するために、どう盛り上げていったらよいか、皆さんと一緒に考えていきたい。

参加者

- ・規模の小さなコンサートがたくさんあることは、常に音楽がある町として素敵である。会場内でのコンサートは、聞く人が限定されてしまうがストリートライブは通りがか

った人や、不特定多数の人に聞いてもらえる良さがあって野外で演奏したいと考えている。富山市のグランドプラザのように屋根があれば雨の日も問題なく演奏できるため、法律の規制等で難しいかもしれないが、ウイング・ウイング高岡広場に屋根を設置してもらえると嬉しい。

参加者

- ・ウイング・ウイング高岡広場はウイング・ウイング高岡の上の階から見下ろすことができ、コンサートをするロケーションとしては素晴らしいと思う。一方で、この広場でコンサートをしたときには、音に関するクレームが JR からくるのではないかと心配した。

市長

- ・ウイング・ウイング高岡広場で催しをする際に、音に関する JR からのクレームは予想されるか。

生涯学習課長

- ・ウイング・ウイング高岡広場の敷地内で開催している分には問題はないと考えている。

参加者

- ・以前、高岡七夕まつりのビアガーデンがこの広場であり、演奏した際、ホテルの宿泊者から音がうるさいと苦情があった。そのため、現在はこの広場での演奏は午後8時までに終了することになっている。

市長

- ・ドラえもんの散歩道もあるので、ウイング・ウイング高岡広場をイベント等で積極的に活用し、もっと目立たせたいと考えている。一方、御旅屋通りはアーケードがあるが、この通りを利用した活動はできないか。今までは、ロックの演奏はしていないが、街角オペラやオープンカフェなどを開催しており、もっとイベントで活用したいと思っている。この機会に、商店街の人たちにも働きかけ、協力や理解を求めている。

参加者

- ・御旅屋通りでオペラ等をやっているが、行きたくてもまちなかまで行けない人がいる。祭りやイベントの模様を生中継したり、インターネット配信やホームページ上に動画を掲載するなどの工夫が必要である。

参加者

- ・市内で行われている文化関係のイベント情報を発信することは必要である。高岡駅で「今日はどこでコンサートを開催しているのか」を告知できればいいと思う。例えば、高岡へ観光バスが来ても、瑞龍寺だけを見て市内を通り過ぎてしまうが、高岡にはほかにも良い観光地があるので、訪れた人を市内に引き留めたい。

市長

- ・ただ単に良いものがあっても、観光客は通過し、バスの車窓からの案内で終わってしまうため、人が集まり、にぎわう場をつくるなど人を呼び込む仕掛けが必要である。

参加者

- ・自分の知り合いは、お土産に錫を薄く叩いて延ばした板で自由に曲げて使うことので

きる「すずがみ」を買って行くが、すずがみを作っているところを見たいという人が多い。駅の B1 フロアにあるスクリーンで、そういったものづくりの工程を見ることができれば、人が集まり、電車の待ち時間に見てみようという気になるのではないか。

参加者

- ・ものづくりの工程を見せるという点では、高岡伝統産業青年会が伝統産業の製造現場の見学ツアーとして高岡クラフツリーズモを開催している。普段なかなか見る機会のないものづくりの現場で職人たちから直接説明を聞く貴重な機会として、県内だけでなく武蔵野美術大学や東京芸術大学の学生なども参加し、好評を得ている。特に金工をやっている学生にとっては高岡は就職の面でも注目されている。

市長

- ・ものづくりをする人が工程などの手の内を見せることは、自分が作っているものが良いものだと証明することでもあり、見た人を納得させることができるので良いと思う。
- ・音楽の話に戻るが、クルン高岡地下街での演奏については、特に問題はあるのか。

生涯学習課長

- ・クルン高岡地下街で演奏することは、問題はないと考えている。

参加者

- ・音楽関係でクルン高岡地下街の B1 ステージを利用したい人は多いと感じている。申込等の利用方法がよくわからないので、教えてほしい。最近、喫茶店等で演奏し始めたが、そこで出会った人達も演奏する場を求めている。以前、滑川市で演奏を行った際、出演者の中に、自分の住んでいる場所からごく近所の方がいた。高岡で演奏したいが、場所がないために市外に行っている人は多いのではないのか。
- ・クルン高岡地下街にふらっと立ち寄り、ギターを演奏してもいいのか。

商業雇用課長

- ・クルン高岡地下街 B1 のステージや公共スペースも含めて T S B 商店会が管理、運営しており、地下のインフォメーションで利用申込や相談をしてほしい。

参加者

- ・クルン高岡地下街 B1 ステージや、ウイング・ウイング高岡の 1 階リトルウイングのステージの利用については、まだ浸透していないと思う。

市長

- ・利用方法等についてまだ周知が不十分であれば、周知方法について工夫していきたい。本市では広報紙、フェイスブック、ツイッターを使用して情報発信しているが、市役所から発信する情報ばかりでなく、色々なツールでも情報を拡散していきたい。

参加者

- ・音楽情報に関するビラを配る方法があればよいと思う。

参加者

- ・ライブ情報や高岡音楽マップ等、音楽情報を掲載するホームページがあれば良いと思う。

参加者

- ・バンドのメンバー募集等のチラシも、現在は配布する場所がないので、告知サイトの
ようなものがあればよいと思う。

参加者

- ・富山県はフェイスブックの人口あたりの利用率が高いと聞いたことがあり、活用すれば多くの人の目に触れることができると思う。

市長

- ・市役所のホームページやフェイスブックから「音楽情報サイトはこちら」と、繋がる
ようなシステムはできないか。皆さんと一緒に考えていきたい。

参加者

- ・ホームページやフェイスブックは、掲載した情報について責任を持って対応する必要があるため、ウェブサイトを作る場合には責任者が必要である。

参加者

- ・高岡駅でストリートライブができるということを周知させたい。ストリートライブを行っている人の多くは、富山県内では富山駅のみがストリートライブができる場所だと認識している。多くの演奏者に来てもらい、「高岡はいい街だった」「また高岡に来たい」という気持ちにさせたい。そのためには、市外の人を受け入れる体制が必要である。と思ってほしい。今は、駅周辺で演奏していいのかわからない。駅の周辺の中で、どこで演奏してもよいという合図を出してもらうことによって、ストリートライブをする人が増えると思う。

参加者

- ・ストリートライブをするための管理部署がどこなのかわからない。たとえば駅の中の活動だったら、JRなのか。何かあったとき責任はどうするのかといったことが不明確である。

市長

- ・2階の南北自由通路や北口人工デッキなど、駅の通路は市道であり、市の管理である。ステージを設置したり大きなイベントをする場合などは、市の建設管理センターへの道路の占用許可申請や警察への届出などが考えられるが、個人で行うストリートライブであれば、苦情が出ないよう周囲への配慮があれば良いと思う。

市長

- ・基本的には南北自由通路やクルン高岡地下街のスペース、2階の北口人工デッキなど問題はないと考えており、演奏できる環境づくりと、ルール作りをしていきたい。

参加者

- ・高校生や大学生のバンドを見たがっている人もいる。学生は普段、学内でしか演奏を披露できない。現在、年1回、高岡文化ホールで高校生や大学生の演奏会をやっているが、学外で活動できる場としてクルン高岡の中に普段から使える音楽エリアがあれば良いと思う。学生にとっても、他校の学生との交流やスキルアップにもつながると考える。

市長

- ・ウイング・ウイング高岡のリトルウイング、クルン高岡地下街の B1 ステージをほぼ同時期に完成させたのは、両方のステージで色々な活動が動き出して連動し、共鳴していったほしいと思ったからである。イベント等がないときでも、ステージが空いているときは練習場所として自由に活用してほしい。リトルウイングや B1 ステージには、音楽をやっている人達が演奏するためや仲間を見つけるために集まる定点スポットとしての役割を期待している。その結果として高岡らしい、「高岡系」と言われるような音楽ができるといいと思う。
- ・音楽情報の発信方法については、責任を持って掲載内容の管理を行うためのルール作りがなされれば良いと思う。フェイスブック等の活用についても検討してまいりたい。
- ・音楽フェスティバルはぜひやってみたいと思っているので、皆さんの力も借りて高岡に人が集まるような仕組みを作っていきたい。今後は今日いただいたアイデアをもとに、できることから取り組んでまいりたい。

以上